

## 分析

データを分析し、証拠に基づいた結論を導き出すことができるようにする。

1 単元名 台風接近（第5学年）

2 指導のねらい

インターネットで調べた台風の経路を記録用紙に記録できるようにする。また、複数の経路図を比較し、台風のおおまかな動きを読み取ることができるようにする。

3 実践の内容

第5学年「台風接近」〔全3時間〕（本時2／3時）

### 1 時間目

衛星写真や天気図などを基に最近の台風による被害や災害について知り、台風の進路を予測することの大切さを理解する。

### 2 時間目

【学習活動】  
インターネットで調べた台風の経路を記録する。複数の経路図から台風のおおまかな動きを読み取る。

#### （1）本時の学習の流れ

- ① 前時の学習を想起し、問題をつくる。
- ② 台風の動きを予想する。
- ③ 調べる方法を確認する。
- ④ 台風の動きを調べる。【分析】
- ⑤ 結果をもとに話し合う。【分析】
- ⑥ まとめをする。
- ⑦ 次時の学習について知る。

#### （2）授業の実際

##### 問題

台風はどのように進むのだろうか。

##### 予想



台風がどのように進むか予想しましょう。



南から北へ動くと思います。台風は南の海でよく発生すると聞いたことがあります。その後、北にある日本へと近づくと考えました。

西から東へ動くと思います。雲の動き方を調べたとき、西から東に雲は動いていたからです。



\*既習事項や生活経験の中から、根拠のある予想を立てられるようにする。

＜指導のポイント＞【台風の動きを調べる活動】

- ①パソコン操作の得意な児童と苦手な子でペアを組んで1台のパソコンを使用し、相談しながら調べさせるようにする。
- ②気象庁のホームページの「気象庁台風経路図」を使って調べさせる。
- ③日本付近の台風の動きを調べるため、経路図の中の「上陸」を選ぶようにさせる。
- ④日本地図を印刷した記録用紙を配付し、自分で選んだ台風の経路を記録させる。



【ペアで活動する様子】

＜指導のポイント＞【調べた結果を話し合う活動】

- ①ペアで調べた経路図を1つ選んで黒板に貼り、いろいろな台風の動きが比較できるようにする。

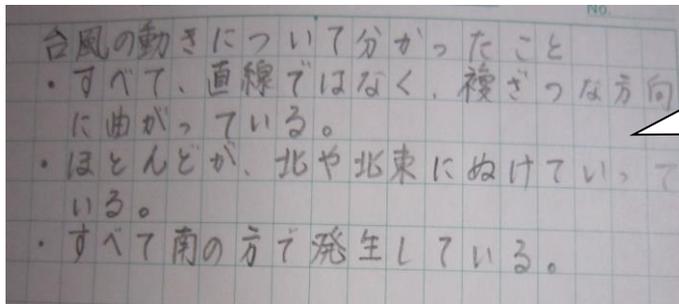


拡大した経路図



- ②経路図の共通点や差異点に注目し、自分の言葉でまとめられるようにする。

考察時におけるノートの記述



いくつかの情報を分析し、事実に基づいた結論を導くことができている。

3 時間目

本時の資料を基に台風の発生場所や動き方、台風のもたらす被害や災害についてまとめる。

4 成果と課題

ペアで調べさせたことやホームページを限定して調べさせたことにより、情報を適切に記録することができた。その情報の中から、日本に上陸する台風は北や東に動くことが多いという共通点を見出すことができていた。月によって台風の進路が変わると予想した児童がいたので、黒板に貼った経路図を月ごとに並べ替えると更に規則性が見出すこともできるのではないかと考えられる。まとめは、「□で発生し、□に向かい、□でカーブしながら進んでいく」などの定型文を用いて確実な理解につなげることも重要である。 (中嶋 史和)